



第4回 部活動地域連携・地域移行協議会を終えて

第4回 部活動地域連携・地域移行協議会を令和6年9月27日(金)に開催しました。多摩市の学校部活動地域連携・地域移行に係る推進計画について、協議を進めました。以下、それぞれの小委員会での意見をまとめてお伝えします。

小委員会1:生徒に関わること

●「推進計画」に記載の内容について ○推進計画に関することについて

- 推進計画に「働き方改革」のための地域移行であると明言したほうが、生徒・保護者にとって地域移行を考える上で理解しやすいのではないかと。
- 地域移行の取組を、まず始めてみるのが大切であり、具体的な実施案を作成し、保護者、生徒に具体的な提案をした方がよい。
- 指導員と生徒との間に部活動の指導方針や内容等の共通理解が必要であり、今後地域移行を進めていく際には、受け皿となる地域団体の指導者の意向を確認したほうがよい。
- 地域移行のことは、教員の働き方改革としての立場と、生徒・保護者の部活動に対する考えの立場があることから、お互いの立場に鑑み、相互理解の姿勢をもって乗り越えることが大切だ。

小委員会2:教員・部活動外部指導員に関わること ●「推進計画」に記載の内容について ○推進計画に関することについて

- 推進目標については、部活動の地域移行が目標になるのではなく、子どもの健全な育成という部活動の本来の目標を掲げていきたい。
- 今後行う実態把握のためのアンケートをいかに活用するかが重要になる。アンケートの対象、内容、時期をしっかりと精査し、次年度につなげていく必要がある。
- ガイドラインをどのように作成するかを綿密に検討することが必要である。例えば、ガイドラインは、現状の課題、ガイドライン作成に至る動向などを踏まえつつ作成される。地域連携・地域移行について、いかにガイドラインを作成するかを今後の協議会で話し合っていくことが求められる。

小委員会3:地域移行に関わること ●「推進計画」に記載の内容について ○推進計画に関することについて

- 地域移行に当たっては、地域移行の受け皿となる団体等の数や取組内容の把握が必要である。
- 生徒へのアンケートの前に、受け皿となる団体へアンケートをした方がよいのではないかと。
- 学校や教育委員会は、受け皿となる団体がどのようなことができるか、また、受け皿となる団体は学校の部活動でどのようなことをしているか、共通理解を図る必要がある。
- アンケートの実施に当たり、今後受け皿となる可能性のある団体に市教育委員会等が現在の状況を説明に行くなどし、意見交換を通して受け皿の状況を把握をした方がよい。

【協議のまとめ】

- 計画の内容については、もう少し時間をかけ、予算を含めて段階的に進めていかななくてはならない。
- 地域連携・地域移行の平日と休日の進め方の兼ね合いも重要である。
- この地域移行の目標は、教員の働き方改革の側面もあるが、子どもの活動の場の確保のために何ができるかを考えるという側面がある。
- 多摩市としてできること・できないことを明確にし、土台を作っていかななくてはならない。

- 
- 今年度は第6回(12月20日)、第7回(2月14日)の協議会の実施を予定している。
 - その中で、市のガイドラインの策定と市が行う生徒、顧問教員向け、地域の受け入れ団体向けのアンケートの内容について検討をする。
 - ガイドラインは他県の例を含めた情報収集を進め、多摩市の現状に合ったガイドラインの策定を目指す。